

名東区が誇りたい
特産物や文化、技術・産業を
ご紹介します。

名東区ブランド ⑤1

ふるさとの魅力を発信

和紙の繊細な質感と色合いを巧みに活かし、甘くやさしい世界観を表現する——この名東区在住、日本でたつた一人の和紙スイーツ作家・倉美紀氏に迫ります。

和紙スイーツの世界～作者・倉美紀～



表現と、甘いお菓子。

好まれる「大好き」が、

A vibrant illustration of a variety of desserts, including cakes, pastries, and ice cream cones, arranged in a row against a colorful, cloudy sky.

さんの作品は大きく分けて、額装・立体形式の2種類。「ケーキな街」(上写真)は、和紙で作られたそれぞれのケーキで街の全貌を表現。果物やクリームの色合いもちろん、空と水のグラデーションもお見事

まるで本物そっくりのお菓子。けれどじつと目を凝らせば、それらがすべて和紙で作られていることに気が付きます。その名は「和紙スイーツ」。生みの親であり日本で唯一の作者、倉美紀さんによる作品です。

「私が大切にしているのは、お菓子から広がるイメージを表現すること」と語る倉さん。「現実にはありえないテーマでも良いんです。お菓子が擬人化されたり、空を飛んでいたり、街になつてたり……。リアリティの追求も欠かせませんが、そんな夢いっぱいの世界を表現したいです」。

和紙スイーツ作家としての倉さんは、表現すること、そして甘いお菓子が大好き!という想いから誕生したと言つても過言ではありません。「とりわけ、幼い頃からモノづくりが好きでした

が、その面白さをはつきりと実感したのは建材商社に勤めていたO.L時代。上司からの提案で、工事中のある建物の反組ひ、そ

の一角のショーウィンドウに作品を展示了なんです。ひなまつりやジユーンブライド、秋の夜長など季節を連想させる物語風の紙人形シリーズを一年間に渡り展開しました。ある日のことショーウィンドウの傍に立つていると『この作品を作ったのは貴女ですか?私はいつもここを眺めるのが好きで、次は何かと楽しみにしてるんです』と、目知らぬ方に笑顔で声をかけて頂いたんです。それはもう、嬉かつたですね」と微笑みます。

そんな気持ちを噛みしめていた倉さん、ふと、「紙でお菓子をつくる」ことを始めます。「きつかけは、お礼状にした一枚のハガキ。色画用紙を用いて、自分が作ったお菓子を表現しようと思つたんです。今思えば、この作業こそが『和紙スイーツ』の原点だったのかも知れません」。倉さんの「大好き」が、ひとつに重なつた出来事でした。



さんが主に使用する「典具帖紙(てんぐじょうし)」。まるで透けるように美しく繊細な薄さは“かけろうの羽”にも例うられる。



ランス・ポルドーの街の影響を受けて作られた「マカロンの行列」。擬人化されたマカロンに耳を澄ませば、まるで会話が聞こえてきそう!



仏・ボルドーではワークショップも開催!

岐阜県・美濃和紙の里会館での二人展



倉さんのオリジナルキャラクター・栗太郎。
彼の日常をフレームインした、心がほわっと温かくなる作品

倉 美紀さん

私にとって和紙とは、
創作活動に
おけるとても
大事なパートナー！
無限の可能性を感じさ
せてくれます。



倉さんの和紙スイーツ詳細・お問合せはコチラから♪

<http://washi-sweets.com> もしくは [和紙スイーツ](#) [検索](#)



**和紙との出逢いで、新たな
お菓子の世界を表現！**

の濃淡を表現できるのも良いところ。とにかくオールマイティです」。そんな和紙の魅力を存分に詰め込んだ作品からは、やさしく甘い香りやふつくらとした手触りや食感など、本來そこにはないものがあるのかのように、どこからか不思議と伝わってくるのです。

そして、忘れてはいけないものは創造性。「単なるリアリティの追求ではなく、甘さややわらかさ、物語りなどを表現できるよう」に。これが私の作品の最大の特徴であります。